中国社会主義経済問題研究

薛暮橋 著

中国社会主義経済問題研究

薛 暮 橋 著

外 文 出 版 社
北 京

中国社会主義経済問題研究

1980年10月　初版発行

著　　者　　薛暮橋

出 版 者　　外文出版社
（北京阜成門外百万莊）

発 行 者　　中国国際書店
（北京　P.O.Box　399）

発 売 者　　(株)中華書店
東京都文京区後楽1—5—3
電話（03）815—0123

編号：（日）12050—57　　12—J—1530S
00350

出版者のことば

本書は薛暮橋氏の原著『中国社会主義経済問題研究』の全訳である。このたびの出版にあたり、著者がいくらか加筆・訂正をおこなっている。

本書の初訳は澹台燕翔氏が担当した。その訳稿に川越敏孝、井出潤一郎、西川博史らの諸氏が筆を入れたあと、川越氏が全体に目を通して、ほぼ訳文の統一をはかった。日本の友人諸氏はおもに業余の多忙な時間をさいて、この作業を引きうけてくださったものである。

なお、原文との照合と割付は林台氏が担当した。また中国社会科学院世界経済研究所の凌星光氏にお願いして、訳稿の全体を通読のうえ、貴重な助言をよせていただいた。

目次

序論……1
第一章　中国の社会主義革命と社会主義建設……19
一　中国の社会主義革命の特殊条件……20
二　中国の社会主義建設の方針……28
三　社会主義の発展段階……36
第二章　生産手段所有制の社会主義的改造……43
一　社会主義的国営経済の指導権の確立と強化……43
二　資本主義工商業の社会主義的改造……52
三　個人経営農業の社会主義的改造……61
四　個人経営の手工業と零細商業の社会主義的改造……70

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第三章　生産手段の二種類の社会主義的共有制……79
一　二種類の社会主義的共有制の大きな差異……79
二　現段階における社会主義の全人民所有制……85
三　現段階における社会主義的集団所有制……93
第四章　社会主義社会での労働に応じた分配制度……107
一　社会主義社会における労働の特徴……107
二　労働におうじた分配の原則を実行する客観的必然性……116
三　全人民所有制経済の労働報酬……122
四　現行賃金制度の改革……131
五　集団所有制経済の労働報酬……141
六　労農間、労働者内部および農民内部における生活格差の正しい処理……151
第五章　社会主義制度のもとでの商品と貨幣……159
一　社会主義国家は商品・貨幣関係の利用に習熟する必要がある……159

二　社会主義社会の商品……165
三　社会主義社会の商品流通……175
四　社会主義社会の貨幣……189
五　商品、貨幣の発展と消滅の過程……197
第六章　価値法則と中国の価格政策……201
一　社会主義経済における価値法則の役割……201
二　経済活動では価値法則の利用に習熟しなければならない……211
三　価格と中国の価格政策……217
四　中国における物価管理制度の改革……228
第七章　社会主義経済の計画管理……241
一　国民経済の計画管理をどうおこなうか……241
二　国家建設と人民生活の統一的計画……252
三　国民経済のつりあいのとれた高速度の発展……262
四　労働力の合理的な配分……272

五　国民経済の総合均衡……279
六　社会主義国の経済計算……288
第八章　社会主義国の経済管理体制……299
一　経済管理体制は改革しなければならない……299
二　国営企業管理制度の改革……308
三　国民経済管理体制の改革……319
四　国民経済の調整と管理体制の改革……333
第九章　国民経済の社会主義的現代化……341
一　中国式の現代化の道をあゆむ……341
二　現代化された農業を建設する……353
三　現代化された工業を建設する……367
第十章　階級闘争と人民内部の矛盾……385
一　社会主義社会における階級闘争……385

二　社会主義社会における人民内部の矛盾……395
三　人民民主主義を発揚し、指導者と大衆とのあいだの矛盾を正しく解決する……406
結語　社会主義経済発展の客観的法則の研究と運用……417
一　マルクス主義の社会主義建設理論はたえず発展する……417
二　社会主義社会の経済法則……428
三　客観的経済法則と人の主観的能動性……442
あとがき……451
作者紹介……454

序論

この本を書こうと思いたってから、もう二十数年になる。一九五五年、于光遠、孫冶方の両同志と協力して政治経済学教科書を書くようにとの任務を党中央宣伝部からあたえられた。その下準備のつもりで、蘇星、林子力らの諸同志とともに、『中国国民経済の社会主義的改造』という本を書き、一九五九年に国慶十周年を記念して出版した（日本語版は一九六〇年に初版、一九七九年に第四版――改訂版発行）。その後は、仕事の余暇にわずかな時間をさいて、社会主義経済建設のなかのいくつかの重要問題を研究し、前後二十数編の論文を書き、十数回の講演をしただけである。昨年、人民出版社が新中国成立直後から文化大革命までのわたしの論文集を編集したいというので、わりあい重要な論文を十数編えらび、『社会主義経済の理論的諸問題』という本にまとめて、今年の四月に出版した。この本は、まとまった著作ではない。そのうえ、いまから見れば、思想レベルが低く、誤りもいくらかありそうである。だが、社会主義経済のそれぞれの重要な側面にはみな言及してあるので、当時のわたしの認識の程度は反映できると思う。この本

は、わたしが社会主義の経済的諸問題を研究するうえでの出発点といってよい。

文化大革命の期間、わたしはできるかぎりの時間を利用して、『マルクス・エンゲルス選集』、『レーニン選集』、『資本論』を通読し、また『毛沢東選集』をくりかえし学習した。一九六八年から『社会主義の経済的諸問題』の執筆にとりかかり、八年間に六回も稿を改めている。だが、はじめは『政治経済学教科書（社会主義の部）』として書くつもりだったのに、筆を入れれば入れるほど困難が多くなった。当時、わたしはまだ、社会主義の経済的諸問題の研究について、いくつかの形而上学的思想の束縛から完全にぬけ出せなかっただけではない。林彪、「四人組」の極左路線による妨害があり、「タブー」もひじょうに多かったので、実際に即した研究をすすめようもなかったのである。したがって、書きあげた原稿は、文化大革命の前に書いた論文とくらべて、あまり進境を示していない。「四人組」が粉砕されて以後、とくに党の第十一期三中総ののちは、全国人民の思想が大いに解放されたので、この本を書くにもひじょうに好ましい条件がつくりだされた。

こんど書き直すにあたっては、教科書を書くという年来の希望をすて、完ぺきな体系などは追求しないことにした。そして、できるだけマルクス・レーニン主義の基本原理を運用して、中国の社会主義革命と社会主義建設の歴史的経験をさぐり、あわせていまだに解決されていないか、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

完全には解決されていない一連の重要経済問題を研究し、これによって社会主義の経済的運動法則についての認識を深めることにつとめた。教科書の編纂を断念したのは、まず執筆の過程で、中国は社会主義建設の歴史が浅く、社会主義経済の発展がまだ十分でなく、必要な実践的経験に欠けているため、完ぺきな理論体系をつくりあげるのは容易でないと気づくようになったからである。つぎには、ここ三十余年らい、経済面の実務にたずさわってきたわたしには、いくらか体得したところがある。このさい、自分の余生を利用して、みずから経験してきた社会主義経済建設の実践にもとづき、当面、探究と解決を必要とすると思われるいくつかの問題を提起して、これを経済の理論家や実務家の参考に供したいと思ったからである。このようにすれば、政治経済学（社会主義の部）の今後の研究にとって、多少、役立つのではあるまいか。

いま、中国の社会主義革命と社会主義建設は、新たな歴史的時期に入った。中国共産党第十一期中央委員会第三回総会は、わが党の今後の活動の重点を社会主義的現代化に移し、今世紀中にわが国を社会主義の現代化した強国にきずきあげるという目標をはっきりと提起している。この政策決定に接し、わたしは本書を一刻も早く書きあげなければならないと思った。新たな時期には、新しい状況と新しい事物がたえず現われ、幾多の理論問題、実際問題が提起されている。党中央は、理論家が実践に先がけ、たゆまぬ研鑽とその業績によって、「四つの現代化」実現に奉

仕するよう呼びかけている。そのためには、思想を解放し、頭を働かせ、大胆に実事求是の原則をつらぬき、大胆に新しいものを創造しなければならない。誤りを犯すのをおそれてはならず、誤りがあれば改め、ふたたび誤ればふたたび改める、というようでなければならない。マルクス、エンゲルスは百三十年も前に『共産党宣言』を発表して、共産主義の輝かしい未来図をさし示した。われわれはもう社会主義社会に入っており、三十年にわたる社会主義革命と社会主義建設の実践的経験をもっている。それなのに狐疑逡巡(こぎしゅんじゅん)して、この科学を前進させる勇気がないなどという理由はないではないか。中国の社会主義的現代化は、いま、新たな征途に第一歩をふみ出している。われわれの世代は、いばらの道をふみわける精神で、子々孫々のために前進の道をきりひらかなければならない。

本論に入るまえに、社会主義の経済的諸問題の研究にあたってわたしの遵守しているいくつかの原則をのべておきたい。

第一、理論と実践とを結びつけること。毛沢東同志は、一九四一年の整風運動のさい、『われわれの学習を改革しよう』という重要報告をおこない、こうのべている。「われわれが学んでいるのはマルクス主義であるが、われわれのうちの多くのものがマルクス主義を学ぶ方法は、直接マルクス主義にそむいている。つまり、かれらはマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリン

がくりかえしさとしている、理論と実際の統一という原則にそむいているのである」①と。理論と実際の統一というのは、実事求是の態度であり、的があって矢をはなつという態度である。われわれは学習と研究にあたって、こうした科学的な態度をとらなければならない。マルクスが資本主義経済の運動法則を研究するため、大量の材料（歴史、現状、理論など）を収集し、これを科学的に分析し、総合的に研究して、資本主義的生産関係の本質とその運動法則をあきらかにし、資本主義はかならず滅亡し、社会主義はかならず勝利するという結論をみちびき出した。われわれが『資本論』を学ぶには、マルクスが解明した理論（資本主義社会の経済的運動法則）を学ぶだけでなく、その研究方法を学ばなければならない。実際からかけはなれた空っぽの「純理論」を研究したり、書物に書いてある結論をただ単にくりかえすような態度は、絶対につつしまなければならない。

社会主義は新しい社会制度である。社会主義社会における経済的運動法則を研究するには、実事求是の態度で、すべて実際から出発し、理論を実際と結びつけるという原則を堅持しなければならない。労働者階級にとって、資本主義国におけるもっとも重要な任務は旧い世界を破壊することであるが、社会主義国におけるもっとも重要な任務は新しい世界を建設することである。資

① 「われわれの学習を改革しよう」『毛沢東選集』第三巻

本主義であれば、生産を組織し管理するのは資本家の仕事であるが、社会主義的現代化をすすめている今日の中国では、社会主義経済をりっぱに組織し管理するのはいく億もの勤労人民の切実な事業であり、偉大な実践である。したがって、われわれは、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想にみちびかれて、新しい状況、新しい事物、新しい問題の研究にはげみ、社会主義経済の法則を認識し、正しく運用して、社会主義経済建設の過程で提起されたいくたの理論問題と実際問題を探究し解決する責任がある。資本主義がどのように社会主義を経て、共産主義へ発展していくのか、この運動法則はマルクスとレーニンがすでにわれわれに示してくれている。かれらの科学的な予見は、いまなお、われわれが社会主義の経済的諸問題を研究するうえでの道しるべである。だが、社会主義経済を研究するには、これらの古典的著作にたよるだけでは不十分であろう。かれらが生きていた時代には、まだ社会主義の実践的経験がなく、あったとしても多くはなかったからである。歴史的事実がよく立証しているように、社会主義、共産主義についてのマルクス主義の学説は、実践の発展にともなってたえず発展するものである。われわれはマルクス、エンゲルス、レーニンの著作を教条と見なしてはならず、万病の妙薬と見なしてはいけない。レーニンは、「われわれはマルクスの理論を、けっしてなにか完成された、不可侵のものとは考えていない。その反対に、この理論は、社会主義者が生活に立ちおくれたくないならば、今後さら

にあらゆる方向に前進させ**なければならない**一つの科学のかなめ石をおいたにすぎないと、われわれは、確信している」①と教えている。

社会主義の経済理論を研究するには、中国の実状から出発しなければならない。中国は、もともと、世界で人口がいちばん多く、生産力の発展水準が低く、小農経済が大部分を占めている半植民地・半封建の国であった。プロレタリアートが権力を奪取してのち、われわれはそうした土台のうえに社会主義革命と社会主義建設をすすめてきた。新中国の成立後、中国共産党の指導のもとに、全国の各民族人民の共同の努力によって、わが祖国はすでに社会主義国にきずきあげられている。だが、それにもかかわらず、わが国はいまだに生産力の発展水準が低く、経済・文化の立ちおくれた社会主義国であることを見ておかなければならない。われわれには、成功の経験も多いが、失敗の教訓も少なくない。いま、過去三十年の歴史をふりかえってみると、このような国で社会主義を建設し、国民経済の現代化を達成するのは容易でないことを痛感しないわけにはいかない。われわれはぜひともマルクス・レーニン主義と毛沢東思想にみちびかれ、中国の実状から出発して、長期にわたる模索をつづけなければならない。そうしてこそはじめて、中国独自の道をさがしあてることができるのである。

① 「われわれの綱領」『レーニン全集』第四巻

第二、社会主義社会の内部矛盾を具体的に分析すること。毛沢東同志が教えているように、矛盾はあらゆる事物の発展過程に存在し、どの事物の発展過程にも始めから終わりまで矛盾の運動が存在する。事物に内在する矛盾を認識してこそはじめて、事物の本質を認識することができる。矛盾は社会発展の動力である。矛盾がなければ、社会の発展はありえない。

毛沢東同志は、『人民内部の矛盾を正しく処理する問題について』という著書のなかで、社会主義社会の内部矛盾を正しく解明し、「社会主義社会においても、基本的な矛盾は、やはり生産関係と生産力とのあいだの矛盾、上部構造と経済的土台とのあいだの矛盾である」①とのべている。また、「社会主義の生産関係はすでに確立されて、生産力の発展とは照応しあっているが、それはまだひじょうに不完全であり、これらの不完全な面と生産力の発展とは、これまた矛盾しあっているのである。生産関係と生産力の発展とのこうした照応しながらも矛盾しあっている状況のほかに、なお上部構造と経済的土台との照応しながらも矛盾しあっている状況がある」②とものべている。これは、社会主義社会の内部矛盾についての毛沢東同志の全般的な見方だといってよい。

これまで、われわれは毛沢東同志のこの思想にたいする理解が的確かつ全面的でなく、社会主

①② 「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」『毛沢東選集』第五巻

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com